

あすなろ



東松島市立大曲小学校

学校教育目標『心もからだも健康で 明るく力いっぱい生きる 子どもを育てる』

三味線日本一 すてきな演奏会



9月18日、津軽三味線日本一・柴田三兄妹コンサートが講堂で行われました。子どもたちにとっては、生の三味線演奏はほとんどが初めて聞く体験でした。豪快で迫力ある津軽じょんがら節やオリジナル曲に子どもたちは圧倒されました。その後、妖怪ウオッチの曲やスーパーマリオのテーマ、ドレミの歌、千本桜など子どもたちのリクエストを含め馴染みの曲をたくさん演奏してくれました。

体験コーナーでは、子どもたちの指名による小野寺陽先生をはじめ、代表児童が三味線に挑戦。柴田さんのアドバイスをうけながら、見事な「ばちさばき」を見せました。三味線演奏も素晴らしかったですが、話も楽しく、「よ～ハッ」という気合いの言葉も大人気でした。

柴田三兄妹の皆さんは、頑張って練習してコンクールで日本一を何度もとったこと、兄弟力を合わせたこと、好きな音楽を自分の仕事としてできることは幸せなこと、自分の夢をもって努力することなどを大曲小の児童に話してくれました。長男・雅人さんは、父の影響で幼い頃に民謡を習い始め15歳から津軽三味線を始めました。その影響で妹の佑梨さん・愛さんも津軽三味線を始めたそうです。お母さんとともに三兄妹世界・全国を三味線の魅力を広めるために駆け回っています。三味線三丁での演奏を生かし、独創的な楽曲を生み出し全国大会に挑戦し、個人団体合わせて39回の優勝。三兄妹にしか出せない、人々を魅了してやまない津軽三味線の音色を目の前で聴かせていただいた貴重な体験でした。会場には、保護者・地区の方も津軽三味線を満喫されたようでした。終了後、校長室で大曲小の子どもたちの、聞く態度、マナー、元気の良さを褒めていただきました。

三兄妹の皆さん。また来てくださいね。*写真は演奏会の様子です。



お知らせ

東松島市教育委員会より、休業日や夜間など学校に職員が不在時、緊急の場合のみに対応する「携帯電話」が市内小中学校に配付されました。【受用電話となります】学校としての対応が必要な場合に活用願います。主に教頭が持っています。大曲小の番号は 080-5849-9902 です。通常の連絡については、これまで同様、学校にお願いします。* この件についての問合せは、教頭までお願いします。

楽しかった『ホワイトボード・ミーティング』 ちよんせいこ先生をお招きして…



本校では、校内研究として『思いや考えを生き生きと伝え合う子どもの育成』を目指し、国語を中心に言語力を育てる活動の在り方を考えています。

その目的に迫るため、9月18日、大阪よりちよんせいこ先生（写真上）お招きし、教職員の研修会を行いました。ホワイトボード・ミーティングとは、ホワイトボードに意見やアイデアを集め、参加者の力が活かされる効率的、効果的な会議の進め方です。気軽な打合せから難しい問題を解決したりするときに使われ、意見を合わせたり、具体的な行動プランを決めたりする中で、参加者みんなが元気になる会議です。2003年にちよんせいこ先生（株式会社ひとまち代表）が開発し、多様な領域で取り組まれています。そのことを、学校現場では、学級づくりや、授業に生かすことができます。



今回は、ちよん先生が、

2年2組 生活科の授業「うごく うごく わたしのおもちゃ」

6年2組 学級活動 「優しい言葉かけ」

の授業を自ら進めていただき、いろいろな指導技術を紹介してくれました。

子どもたちは、ちよん先生の話術に引き込まれ、自分の思いや考えをホワイトボードに書いたり、隣の子と話したりと、生き生きと活動していました。先生〇×クイズ、サイン大会、じゃんけん大会などのゲームも体験し、自分の気持ちを素直に表現したり、相手の話の聴き方も学びました。ちよん先生の指導で、言語活動を通して友達同士温かいコミュニケーションを体験することができました。

放課後には、石巻市立二俣小学校の本川 良先生をお招きし、ホワイトボード・ミーティングを使った学級づくりの実践などを説明してもらいました。1年間、温かい心通う人間関係を築くために実践したことをお話していただきました。当日は東松島市内の先生方も参加し、研修を深めました。今回学んだことをこれからの指導に生かしていきたいと思います。*写真は授業と研修会の様子です。↓



5年・産地調べ

5年生廊下には、児童が調べた『産地調べ』が掲示されています。

食べ物（果物、野菜、魚、肉・・・）を中心に、パッケージや新聞広告、ちらしなどからの切り抜きをあつめ日本地図に貼っています。（写真⇒）

- 児童は・北の方・寒いところとれるもの
- ・南の方・温かいところとれるもの



・全国各地とれるものなどを分類したり、「大曲とれるか」「日本国内とれるのか」「日本とれるのに、なぜ外国産のものが多くあるのか・・・」など自分でテーマを持って考えているようです。〇〇産ということから、学びの材料はいくつも見付かります。

御家庭でも、『これは、〇〇産・・・？』と話題にしてみてもいいのではないでしょうか。

